

9人制バレーボールのゲーム分析

今井穂乃香（愛媛大学）

1. 目的

本研究では、女子9人制バレーボールのトップレベル、地方大会、家庭婦人の各競技レベルにおいて、どの技術項目が勝敗に関連するのかをゲーム分析によって明らかにし、比較・検討して、9人制バレーボールにおけるゲーム分析の方法を確立するとともに、競技レベルに応じたチームづくりをするための示唆を得ることを目的とした。

2. 研究方法

1) 調査対象

各競技レベルの大会において、準決勝に勝ち残った4チームによる準決勝戦、決勝戦の3試合、計9試合を対象とした。なお、調査する大会は下記の通りである。

- ①トップレベル：第87回全日本総合女子選手権大会（2018年12月2日）
- ②地方大会：第32回四国6・9人制男女クラブ選手権大会（2019年7月15日）
- ③家庭婦人：第57回松山市民バレーボール大会（2019年5月19日）

2) 調査方法

VTR撮影はコート中央の後方から、コート全体とネット上のボールが画面に入るように設置した。また、データはこのように録画した試合を後日再生しながら作成した記録用紙を使用し、各技術項目について評価して記録した。

3) 分析方法

まず、ポジションごとにプレーヤーNo.を付けた。次に、各技術項目について米沢（1996）の技術評価基準を参考に作成した評価基準表を基に各プレーを評価し、記録した。さらに、どのようなプレーで得点しているのかを明らかにするために、攻撃的プレーであるサーブとスパイクは他のプレーよりも評価項目を多く設定した。また、ネットプレーが行われた場合、そのプレーヤーNo.に印を付け、最後に技術項目ごとに総数を算出した。

3. 結果と考察

1) 同じ競技レベルにおける成績別の比較

同じ競技レベルでは、ブロックとスパイクの評価が勝敗に影響していると考えられる。

ブロックについて、上位チームは自コートに返球（評価2）と相手コートに返球（評価3）が高く、ノータッチ（評価5）が低いことからブロックがしっかりと完成されていると考えられる。

スパイクについて、上位チームは決定（評価1）が高くなっている。

2) 異なる競技レベルでの比較

異なる競技レベルでは、ほとんどの技術項目でトップレベルの良い評価が多く、ミスが少なかった。地方大会と家庭婦人がよりレベルの高いバレーをするためには、ブロックと2段トスの上達が有効だと考える。

ブロック（表1）について、トップレベルで自コートに返球（評価2）が高く、ノータッチ（評価5）が低くなっている。

表1 各競技レベルにおけるブロックのプレー総数に対する評価の割合

レベル	総受数	セットあたり	1	2	3	4	5	6
J	781	55.79	3.20%	42.64%	21.13%	4.87%	26.63%	1.54%
C	550	39.29	3.64%	31.09%	18.91%	3.27%	41.27%	1.82%
M	448	32.00	4.24%	34.82%	15.40%	4.46%	40.18%	0.89%

トス（表2）について、セッターからのトスにほとんど差はないが、他の選手からの2段トスは攻撃可能（評価3）なトスがトップレベルで高く、十分に攻撃できない（評価4）トスが地方大会と家庭婦人で高くなっている。

表2 各競技レベルにおけるトスのプレー総数に対する評価の割合

レベル	総受数	セットあたり	1	2	3	4	5	6
J	966	69.00	50.93%	1.04%	31.88%	8.49%	7.35%	0.31%
C	791	56.50	52.84%	2.15%	25.16%	10.49%	8.47%	0.88%
M	645	46.07	52.40%	1.09%	24.65%	10.70%	9.61%	1.55%